

平成22年度葉ねぎにおけるハイフミンハイブリッドGの試験結果報告書

日本肥糧株式会社

1. 展示圃課題名； 葉ねぎにおける生育の健全化の確認
2. 供試作物； 青ねぎ 品種「黒潮」
3. 展示圃設計内容
 - (1) 展示圃設置生産者； 和歌山県日高郡 JAグリーン日高美浜営農センター管内 T氏
 - (2) 試験規模； 展示区、慣行区ともに40坪ずつ(1棟約80坪)
 - (3) 圃場条件； ハウスにて前作のミニトマト収穫後残渣をすき込んで土壌消毒無しで定植
 - (4) 施肥設計(40坪当たり)

区名	土壌改良・肥料名	基肥	追肥	区名	土壌改良・肥料名	基肥	追肥
		9月中旬	適宜			9月中旬	適宜
展示区	ハイフミンハイブリッドG	75kg		慣行区	無施用	—	
	IB604(16-10-14)	7kg			IB604(16-10-14)	7kg	
	NK化成(16-0-16)		3kg		NK化成(16-0-16)		3kg

(5) 耕種概要

供試品種； 「黒潮」
 展示資材施用日； 平成22年9月中旬(全面施用)
 定植日； 平成22年9月18日
 収穫期； 平成22年11月下旬～12月中旬
 調査日； 平成22年12月10日

4. 展示試験の結果および考察

展示、慣行区の葉ねぎを無作為に10株抜き取り、生育調査を行なった。調査は全重、地上部・根部新鮮物重、1株本数(分けつ数)、総根長(直径2～0.2mmの養分吸収根の長さ)を測定し、平均値を求めて両区の平均値について有意差を統計処理して確認した。平均的な3株を写真で示した。

表 葉ねぎの生育調査結果(10株の平均値)

区名	全重 (g)	地上部重量 (g)	根重 (g)	1株本数 (本)	総根長 (m)
展示区	269(127)	257.7(127)	11.7(136)	12.5(118)	41.0(183)
慣行区	211(100)	202.6(100)	8.6(100)	10.6(100)	22.4(100)
統計処理結果	※	※※	※	※	※※

注1) 統計処理結果の※は2つの平均値間に5%レベルで有意差がある。

※※は1%レベルで有意差があり、統計的にも著しい差が認められる。

注2) 平均値の右側の()内の数値は慣行区を100とした指数を示す。

①温度と日照条件が同じ環境の畝より、実際の収穫と同様に手で引き抜き採取して生育調査を行なった。

結果を上表に示した。

写真の赤白のスケールは1コマ5cmで両区とも長さが60cm以上あり、出荷基準を満たしていた。(根付きで出荷する。)

②写真のように「ハイフミンハイブリッドG」施用区(展示区)の葉ねぎは根量が明らかに多く、生育調査の結果を見ても根の重量だけでなく細根の量を示す総根長が慣行区より83%増えている。

葉ねぎの根域の環境を「腐植+トリコデルマ菌+バチルス菌」のトリプル効果で改善し、細根(養水分吸収根)を十分に伸ばして葉ねぎの生育を促進し、分けつ数や地上部の生育を促進している。

③「ハイフミンハイブリッドG」の施用によりミニトマト残渣を効率良く分解し、作土層の微生物相を健全化して葉ねぎの生育を促進することにより増収に役立つことが確認できた。



以上